



力はどのようにして人間の血を吸うの

オスの力は血を吸わない

たいていの人が、力にさされて、かゆくてたまらなかった経験があるから、力は、みんな血を吸うと思っていませんか。

じつは、人間の血を吸うのは、力のメスだけです。メスが体内で卵をつくるのに、人間の血などのような、栄養のあるものが必要なのです。ふだんは、力のメスもオスも、果物や花のみつなどの、あまいしるを吸って生きています。

力は血を吸うとき、血管に細い管を差しこんで吸います。とちゅうで血がかたまらないように、まず、特別のつばを出して血と混ぜます。このつばが、人間の体内でアレルギー反応を起こして、力にさされたときの、かゆみを引き起こします。

力が病気をうつす

力は人間だけではなく、イヌやブタの血も吸います。そのため、力は人間に、高熱を出して死ぬこともある、マラリアという病気をうつす役もします。力がマラリアにかかった人の血を吸ったあと、ほかの人をさすと、血の中にあるマラリアの病気のもとになるもの(マラリア原虫)が、力の口を通して、ほかの人の体に入ってしまうのです。イヌの血の中で虫が増えていくフィラリアという病気も、同じように、力がうつします。

体温の熱などで人間を見つける

力は、人間のはく息にふくまれている二酸化炭素と、体温の熱を目印にして、人間を見つけます。力を退治するのに便利な、かとりせんこうや電気かとり器は、熱で、力をやっつける成分の入ったけむりや気体を、出すしくみになっています。(監修・中山 周平)

